

応用社会調査論

担当者 宍戸 邦章

開講時期 後期

単 位 2

●講義の概要

現代社会はデータに溢れ、ともすれば、私たちはデータに溺れがちです。データを眺めているだけでは意味のある情報を抽出することができません。身の回りの課題を統計的な問題に設定する能力、データを整理し、意味のある情報を引き出す分析能力、分析結果の効果的な発信能力を身に付けた人材が求められています。

本講義では社会調査の基礎を学んだ後で、大阪商業大学JGSS研究センターが実施している日本版総合的社会調査のデータを活用し、データ分析の初歩から応用までを学んでいただきます。パソコンに不慣れな学生や数学が苦手な学生にも初歩から解説しますので、安心してください。

●講義の到達目標

- ・社会調査の基礎的知識を修得する
- ・統計ソフトを使ってデータを加工し、分析する力を身に付ける
- ・計量分析に基づく論文執筆能力を身に付ける

●講義計画

- 第1回 社会調査とは何か？
- 第2回 学術調査の調査票
- 第3回 データの構造
- 第4回 SPSSによるデータの読み込みと加工
- 第5回 データの加工に関するプログラム
- 第6回 データの分析に関するプログラム
- 第7回 2変数間の関連性
- 第8回 回帰分析の基礎
- 第9回 多変量解析
- 第10回 JGSSの調査票から仮説を作る
- 第11回 仮説を検証するモデルを作る
- 第12回 データ分析の実習
- 第13回 仮説の検証
- 第14回 レポートの作成
- 第15回 分析結果の報告

●成績評価基準と方法

講義の最後にレポートを作成してもらい、次の3つの点が達成できているかどうかで、成績を評価します。授業中の発表60%、研究レポート40%。

- ①社会調査の基礎的知識が修得できたか
- ②統計ソフトを使ってデータを加工し、分析する力を身に付けたか
- ③計量分析に基づく論文執筆能力を身に付けたか

●テキスト又は参考文献

- ・岩井紀子・保田時男『調査データの分析の基礎』有斐閣
 - ・ボンシュテット&ノーキ編 海野道郎・中村隆訳『社会統計学』ハーベスト社
- (テキストは配布するので、購入の必要はない)

●受講上の留意点

データに基づいて、自分の仮説を検証することは、どのような研究においても必要です。計量分析の力を身に付けるには、自分でデータを触り、分析するしかありません。数字が苦手な学生も逃げずにチャレンジしてみましょう。